

2015年度 外国語学部(スペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジア学科)・法学部

2015年2月12日実施

解 答

1 (D)	2 (B)	3 (C)	4 (A)	5 (B)	6 (B)
7 (C)	8 (D)	9 (B)	10 (B)	11 (A)	12 (A)
13 (C)	14 (A)	15 (D)	16 (C)	17 (A)	18 (A)
19 (D)	20 (C)				

- 「日本の学校の子供はみな『大きな古時計』の歌を知っている。しかし、アメリカ人によって作曲されたのに、多くのアメリカ人がその歌をよく知らない」
 - 選択肢はすべて前置詞であるが、空欄前の *are not familiar* に注目すると、候補は(B)to と(D)with に絞られる。文意より、(D)が正解である。
 - be familiar with** ~ 「(物事)をよく知っている/~に精通している」
 - be familiar to** ~ 「(人)によく知られている」
 - ▶ A(人) **is familiar with** B(物事) = B **is familiar to** A の関係に注意。
 - [例] I *am familiar with* this machine. (私はこの機械をよく知っている。)
 - = This machine *is familiar to* me.
- 「マークは先週から毎日レポートに取り組んでいる」
 - ▶ 現在完了進行形の文で、「時の一点」や具体的状況を表す場合は since を用いる。
 - have been doing since** ~ 「~以来ずっと…している」
- 「テストをとても早く解き終えたので、マリコは注意深く答えを見直した」
 - ▶ 分詞構文の問題。完了形の分詞 *having done* は主節の動詞(本問では *reviewed*)よりも前の時であることを示す。(A), (B), (D)はいずれも接続詞なので, SV...が続かなければならぬ。
 - [例] *Having lost* his money, John was not able to pay for lunch.
(お金を失くしてしまったので、ジョンは昼食代を払えなかった。)
- 「その子供たちはテーブルに残っていた果物を全部食べた」
 - ▶ it (= the fruit) was left on the table の it が主格の関係代名詞 which になり, which was left ... となつたと考える。
 - in that** ~ 「~という点で/~だから(=because)」
 - ▶ that 節は原則として前置詞の目的語にならないが, in that ~ と **except that** ~ 「~ということを除けば」は例外。
 - The situation is rather complicated *in that* we have two bosses.
(長が2人いるという点で、事態はかなり複雑である。)
 - We had a pleasant time, *except that* the weather was cold.
(寒かったことを除けば、我々は楽しい時を過ごした。)
- 「長い間、電話も手紙もないでの、私は友人のタローのことを心配している」
 - ▶ 空所の後ろの nor とともに用いるのは neither のみである。
 - neither A nor B** 「A も B も ~ない」 (= **not either A or B**)
 - ▶ A と B の両方を打ち消す。not either A or B と同意。
 - ▶ 主語として用いる場合、動詞は B に一致させる。
 - [例] **Neither** the teacher **nor** the students are[^xaren't] in the hall.
(その教師も生徒たちも講堂にいない。)
 - 「ジェレミーの背の高さを考えれば、彼は優秀なバスケットボール選手になると思うだろう」
 - ▶ how ... is は Considering の目的語。(A)は ~ considered 「~が考慮されれば」のように用いる。
 - [例] all things considered 「あらゆることを考えてみると」 **独立分詞構文**
 - ▶ (C)considerable 「かなりの、相当な」, (D)consideration 「考慮」
 - considering** ~ 「~のわりには(=for) / ~を考慮に入れると」 (= **given** ~)

He looks young, considering his age.

(彼は年のわりには若く見える。)

Given the fact that I was tired, I managed to play the piano pretty well.

(疲れていたという事実を考慮すれば、私はなんとかなり上手にピアノを弾いた。)

7. 「出発する前にメールをくれていたら、空港へ迎えに行くよう手はずを整えていただこうに」

► 過去の事実に反する仮定は、仮定法過去完了を用いる。

仮定法過去完了

基本形 : If + S + **had done** ~, S' + 助動詞の過去形 + **have done** ...

「もし(あの時)~だったら、…だっただろう(に)」と過去の事実に反することを仮定・想像する構文。

If I **had arrived** at the station five minutes earlier, I **could have caught** the train.

(5分早く駅に着いていたら、その電車に間に合っていただろう。)

8. 「キムは先週受けた数学のテストの悪い点数のことをまだ気に病んでいる。私ならとっくに忘れているだろうに」

► 仮定法過去と仮定法過去完了の混合形を用いる。他の選択肢はいずれも、仮定法の主節では用いない形。

■ if 節と主節で、表す時が異なる場合

If I **had taken** the medicine **then**, I **might be** fine **now**.

(もしあの時あの薬を飲んでいたら、私は今元気になっているかもしれないのに。)

► if 節と主節の時を表す副詞要素に注目すること。[if 節...then, 主節...now]

9. 「父は、宿題を終えない限りテレビを見てはいけないと私に言った」

► 空欄には文と文をつなぐ接続詞が必要である。(A)except「～ということを除いて」,(B)unless「～しない限り」,(C)whereas「ところが一方～」のうち、文意が成り立つののは(B)である。(D)despite「～にもかかわらず」は前置詞であるため不可。

□ unless ~「～でない限り(=except that ~)/もし～でなければ(=if ... not)」

► unless は「～でない限り」という否定の条件を表し、仮定法では用いない。

► unless は if ... not に置き換えられる場合が多い。

[例] The laundry won't dry quickly **unless** it's sunny.

= The laundry won't dry quickly **if** it is **not** sunny.

(晴れていないと洗濯物はすぐに乾かない。)

10. 「この数年間にわたって、母は夏の間田舎に小家屋を借りている。今年もそうするつもりだ」

► 「この数年間にわたって」とあるため、現在までの継続を表す現在完了進行形 have been doing「ずっと～してきた」を用いる。(C)は現在進行形で現在の進行動作を表すため不可。

► (A)used to do 「以前はよく～したものだ/以前は～だった」

11. 「私のかかりつけの医者は私を病院の専門医に紹介してくれた。来週、予約がある」

□ refer A to B 「A を B に紹介する/A(患者)を B(専門医)に紹介する」

I was referred to a larger hospital for surgery. [受動態]

(もっと大きな病院へ行って手術を受けるように言われた。)

cf. refer to ~「～を参照する/～に言及する」 (= consult)

While in England, I often referred to the guidebook.

(イギリスにいる間、私はしばしばそのガイドブックを参照した。)

cf. refer to A as B 「A を B と呼ぶ[言う]」

She was referred to as a professional golfer. [受動態]

(彼女はプロゴルファーと呼ばれていた。)

12. 「あまりに裕福なため、1ドルの価値がどれほどかという感覚をすっかり失ってしまっている人たちがいる」
- ▶ (A)sense「感覚」, (B)value「価値」, (C)mind「心, 精神」, (D)reason「理由, 理性」のうち, 文意が成り立つのは(A)である。
 - ▶ of以下の, what a dollar is worthは「1ドルの価値はどれぐらいか」という間接疑問が前置詞ofの目的語となっている。

■間接疑問

疑問文がほかの文の一部に組み込まれ、名詞節として主語・(動詞/前置詞の)目的語・補語などになるとき、これを間接疑問という。

間接疑問では、疑問詞の後は平叙文と同じ「S+V」の語順になる。

[例] I don't know + Who was it? → I don't know who it was.

【間接疑問の文中での働き】

① 動詞の目的語

Do you want to know what I bought?

(私が何を買ったか知りたいですか。)

② 前置詞の目的語

I have no idea (of) who broke the computer.

(誰がコンピューターを壊したのか見当がつかない。)

※この場合、前置詞ofは省略されることが多い。

③ 主語

When he left the house is not known.

(彼がいつ家を出たのかはわかっていない。)

④ 補語

The problem is how we will finish this job.

(問題は、どうやってこの仕事を終えるかということだ。)

13. 「ラリーはいつも仕事に遅れて来る。もっと時間を守らないと、仕事を失うかもしれない」
- ▶ (A)accurate「(答えなどが)正確な」, (B)conscious「意識している」, (C)punctual「時間厳守する」, (D)strict「厳しい」のうち、文意が成り立つのは(A)である。
14. 「ロニー、人生でできる最も大切なことの一つは、教育を身につけることだ」
- ▶ an education「教育」を目的語に取る動詞として適切なのは(A)acquire「(知識などを)身につける」である。
 - ▶ (B)realize「～を悟る; (希望などを)実現する」, (C)achieve「(仕事など)を成し遂げる (= accomplish), 完成する」, (D)accomplish「(仕事・計画など)を成し遂げる」
15. 「アンドロイドソフトを動かすスマートフォンは、市場で手に入る最良の携帯機器の一つと考えられている」
- ▶ Android softwareを目的語に取る適切な動詞は(D)run「(機械などを)動かす」である。(A)install「(人が装置などを)取り付ける」, (B)workにも「(機械などを)動かす」という意味があるが、**ソフトウェアを動かす場合は run を用いる。**(C)do「～を行う」

□ among + the + 最上級 「(ある集合体)の中の 1 つ [1 人] で」

This lake is among [one of] the deepest in the country.

(この湖はその国で最も深いものの 1 つだ。)

□ consider A (to be) B 「A を B とみなす」 (= regard A as B)

He is considered (to be) a great scholar.

(= He is regarded as a great scholar.)

(彼は優れた学者と考えられている。)

16. 「昨日、地下室を掃除したとき、私たちがどれほど多くのものをため込んでいるかに驚いた」

- ▶ (A)contributed「貢献した」, (B)amounted「(数値など)に達した」, (C)accumulated「ため込んだ」, (D)increased「増やした」のうち, 文意が成り立つのは(C)である。
17. 「ピーバー教授はコンピューターをチェックして、ジャックが生物学の最終論文を提出したか確かめた」
- ▶ his final biology report を目的語に取る適切な動詞は, (A)turned in「～を提出した」である。
 - ▶ (B)taken on「(性質など)を帯びた」, (C)entered into「(交渉など)を始めた」, (D)passed up「～を渡した」
 - **turn in ~**「～を提出する」 (= **hand in ~/give in ~/submit ~**)
 - ▶ **hand in ~/give in ~**《英》は「(手渡しで)提出する」場合。「(郵送して)提出する」なら **send in ~**を用いる。**turn in ~**《英》はどちらの場合にも用いる。

turn を含むイディオム

- **turn on ~**「(テレビ・ラジオ・電灯など)をつける/(ガス・水道など)を出す」
- **turn off ~**「(テレビ・ラジオ・電灯など)を消す/(ガス・水道など)を止める」
- **turn up**「現れる/姿を見せる」 (= **show up/appear/come/arrive**) [自動詞の用法]
- **turn down ~**「～を拒絶する」
 - ▶ **turn up ~**「(音量など)を大きくする」 ⇔ **turn down ~**「(音量など)を小さくする」
- **turn in ~**「～を提出する」 □ **turn A into B**「AをBに変える」
- **turn out (to be) ~**「～であることがわかる」 (= **prove (to be) ~**)
- **turn[look] to A (for B)**「(Bを)Aに頼る」 (= **depend on[upon] A (for B)**)

18. 「今より若いころ、ジョンはごくわずかしか運動をしなかった。それで、50歳のときテニスを始めた。今ではとても上手である」
- ▶ tennis を目的語に取る適切な動詞は, (A)take up「(趣味など)を始める」である。
 - ▶ (B)take out「(食べ物)を持ち帰る/ティクアウトする」, (C)take over「(職など)を引き継ぐ」, (D)take in「～を吸収する」
 - **take up ~**「①(時間・場所など)を取る/占める②(趣味・仕事として)～を始める」
 - I'm sorry I've **taken up** so much of your time.
(お時間をすっかり取ってしまってごめんなさい。)
 - He **took up** golf as a pastime.
(彼は趣味[気晴らし]としてゴルフを始めた。)
19. 「3月に降った雨にもかかわらず、その花々はこの春に美しく咲くはずだ」
- ▶ with all ~で「～にもかかわらず」という意味の表現である。
 - ▶ (A)besides「～を除いて/～以外には」, (B)since「[理由]～なので/～である以上」
 - **with (all) ~**「[譲歩]～にもかかわらず/[理由]～があるので」
 - With (all) her faults, I still love her. [譲歩]
(彼女には欠点があるが、やはり彼女が好きだ。)
 - With (all) that noise, I couldn't study at all. [理由]
(そのように騒がしかったので、ちっとも勉強できなかった。)
20. 「メグおばさんは見事な日本の着物のコレクションを持っている」
- **a collection of ~**「～のコレクション(所蔵品)」
 - a large **collection of** foreign stamps (外国切手の大コレクション)
 - ▶ (A) a group of + **複数名詞** 「一団の～(人・物など)」 [単数・複数扱い]
 - [例] A group of boys were[was] playing in the park.
(少年の一団が公園で遊んでいた。)